

令和4年4月～令和5年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
4	23	久保	渡辺	テーマ:小さなお花見 ～目立たない花の観察～ 天候:晴 参加者:14名 モミジの花、ケヤキの花、ブナ科の花・・・普段目にすることのない小さな花にスポットを当てて観察。 ＜観察した主な植物＞ ヤマグワ、モミ、ケヤキ、ムクノキ、イロハモミジ、サワラ、カヤ、モチノキ、スダジイ、御衣黄など			
5	28	河野	善宝	テーマ:実りの秋に備える～受粉と若い実～ 天候:快晴 参加者:9名(ほかに幼児1名) 花の形態(両性花、雌雄異花、雌雄異株、装飾花など)、受粉の仕方(風媒、虫媒、鳥媒など)、種子の散布の仕方(風散布、動物散布、水散布等)について、植物ごとに観察した。また、ヤマグワとヤマザクラの実を味わった。 ＜観察した主なもの＞ヤマグワの実、アジサイの花、モクレンの実、ヒマラヤスギの球果、ヤマザクラの実、エノキの実、モチノキの実、ヤマボウシの花、イロハモミジの実、クスノキの花、ユリノキの花、ドクダミの花、マテバシイ・スダジイの花			
6	25	佐藤	松本	テーマ:航空公園で樹木を探そう, 学ぼう! 天候:晴れ(35度近くの猛暑) 参加者:9名 観察会を始める前に事前に用意したA4用紙(市の木や市章など観察予定の内容)に記入してもらい, 歩きながら埋めてもらった。暑さもあったため, 一か所あたりの説明はコンパクトに行い11時過ぎには観察会を終えた。 ＜観察した主な生きもの＞ ガクアジサイ(花), リョウブ, イチョウ(実), マテバシイ(花), エノキ, ウラナミアカシジミ, コナラ(ナラ枯れ), オニドコロ, ヤハズソウ			

9	24	河野	辰尾	台風接近により中止			
10	22	善宝	河野	テーマ:実りの秋～どんぐり他～ 天候:曇 参加者:9名 5月に実施した「実りの秋に備える」の続編として、当時観察した木の実が秋になってどう変化したかを確認した。地上に落下している2年成のマテバシイとスダジイの実を拾い、甘く熟しているエノキとムクノキの実を味わい、ユリノキの実と新芽が併存している様子、モクレンの新芽、ヒマラヤスギの球果などを観察した。その他、コナラ、モチノキ、サワラ、ハンノキ、ウメモドキの実を観察した。カツラの落葉の芳香も楽しんだ。途中、ガイドが用意した、マテバシイのコーヒー風お茶を飲み、炒ったマテバシイとスダジイの実を食べてもらった。			
					＜スダジイ＞ ブナ科シイ属の常緑高木。6月頃穂状花序を出す。花には強い香りがあり、甲虫やハナアブ、蜂類が訪花する。堅果は殻斗に包まれ、熟期は2年生。樹皮に含まれるタンニン、黄八丈の黒色部の染料に使用される。	＜ウメモドキ＞ モチノキ科モチノキ属の落葉低木。葉や枝が梅に似ていることからウメモドキ。山間の湿地や雑木林に自生するが、晩秋にできる赤い果実が美しく、庭木、盆栽、生け花の花材としても利用される。モチノキの間では数少ない落葉樹。	
11	26	佐藤	河野	テーマ:紅葉とサザンカ:晩秋の風景を楽しむ 天候:曇り時々小雨 参加者:7名 スタート地点近くにあったサザンカ(寒椿)の前で黄葉・紅葉・褐葉の仕組みの違い、ツバキとサザンカの相違点など本日のテーマ全般に渡るオリエンテーションを行った後出発となった。特に時間を割いたのは、オオモミジの見事な紅葉の前でイロハモミジとの違いを確かめたり、ヤツデの前では雄花・雌花の姿形の違いなどを確認した。参加者全員が予め配布した袋に落ち葉を拾い集め、持ち帰って樹種を再度確かめることとして散会した。 主な観察種:イロハカエデ、オオモミジ、サザンカ各種、ヤツデ、カツラ、エノキ、イチヨウなど			
					オオモミジ	カンツバキ	

12	17	渡辺	久保	テーマ:冬の公園の楽しみ方 ～バード・ウォッチングのススメ～ 天候:くもり 参加者:10名 天気は薄曇りで気温も低かったのですが、風もなくまずまずのお散歩日和でした。4回目となる今回はコースに日本庭園を加えました。日本庭園では渡って間もなくのツグミがよく見られました。次に定番の池に向かいカモを観察しましたが、最近カモが少なくなっている気がします。 見られた野鳥:ツグミ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、マガモ、カルガモ、コガモ、ムクドリ、ヒヨドリ、ドバトなど		コガモ(手前3羽がオス、奥2羽がメス)		カワセミ(翡翠)のオス	
1	28	河野	佐藤	テーマ:航空公園で「縁起物植物」を探そう 天候 :快晴 参加者:7名 観察に先立ち、代表的な縁起の良い植物(16種)について説明を行い、今日のコースで歩きながら探すこととした。彩翔亭に向かう途中のロウバイ園は、ソシンロウバイとマンゲツロウバイが咲き始め、甘い香りに包まれていた。 基本的な松竹梅やナンテン、NHK大河ドラマの家康公に因んだオモト等を観察した。フクジュソウはまだ芽が出ていなかったが、参加者が毎年咲く場所を示してくれた。マンリョウのところでは、お馴染みの一両から千両と呼ばれる植物名を、ミツマタの蕾の前では来年変更になる紙幣の材料の話題などで盛り上がった。やはり食べ物とお金の話は鉄板である。近くにユズリハが無いので万葉植物園に向かう。ユズリハを観察した後、近くに咲いていたツバキの観察で締めくくった。		＜オモト＞(万年青) (キジカクシ科オモト属) 徳川家康の江戸入城時に、家臣たちが贈答品として贈ったのがきっかけで広まった常緑の観葉植物です。葉がぶ厚く、日陰でもよく育ち、長寿の縁起物にもなっています。 秩父市出身の嘶家・林家たい平師匠も引っ越しの際祖父から贈られたオモトが今でもご自宅で健在のようです。(彩翔亭にあり)		＜ナンテン＞(南天) (メギ科ネンテン属) 一属一種の珍しい植物です。「難を転じて福となす。」に通じることから新春を迎えるめでたい植物としてよく用いられています。江戸時代の正徳2(1712)年に成立した図説百科事典『和漢三才図会』にも「庭中に植えて火災を避くべし」と記されています。 常緑樹ですが珍しく紅葉するので、冬の間赤い実と紅葉が同時に楽しめますね。(彩翔亭や万葉植物園などにあり)	

2	25	佐藤	松本	テーマ:「雪中四友」ロウバイ、スイセン、ウメ、サザンカ 天候:快晴・弱い風 参加者:10名 早春の花を中心とした観察会でした。テーマのうち2つ、①ソシンロウバイと②スイセンは蠟梅園で観察しました。盛りは過ぎていましたが、甘い香りが立ち込めていました。③ウメは日本庭園にある紅梅・白梅です。ウメの下にはフクジュソウも咲いていました。花を温めて虫を集めるフクジュソウに対して、“雪中四友”の花たちは香りで惹きつけます。また、人との関わり・冬の仕事ということで、貨幣原料としてミツマタ、茶室の高級炭として用意したクヌギの菊炭を観察しました。テーマ4つめの④サザンカは生垣の寒椿のほか、ツバキ属の自生種の話を変えて万葉植物園で乙女椿などを観察しました。			【ウメ:日本庭園】 例えば、一重咲きの白花でも何品種もあり、違いを見分けるのは難しそうです。“稀老瘦蒼”という大人の嗜み方を学びながら観察しました。 【乙女椿:万葉植物園】 ユキツバキ系の品種です。テーマはサザンカでしたが、日本原産の4種の話から万葉植物園の色鮮やかなツバキの観察となりました。初めて万葉植物園を訪れた方もおり、佗助系のツバキなども大変好評でした。	
3	25	芳野	善宝	テーマ:サクラ 天候:雨 参加者:5名 雨かつ肌寒い中、5名の参加があった。はじめに、雨を避けるため屋根のある所へ移動して、事前に作成した資料に沿って、日本のサクラの原種10種類について解説した。その後、傘をさして、カワヅザクラ(既に葉桜になっている。)、カンヒザクラ、オオシマザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ベニシダレ(エドヒガン)、ギョイコウ(まだ蕾の状態。)、ジンダイアケボノを観察して回り、それぞれの特徴を説明した。なお、用意していた桜餅と桜湯を味わってもらったが、思いのほか好評であった。			「染井吉野」は江戸時代末期に、江戸の染井村の植木屋から、桜の名所、奈良の吉野山にちなみ「吉野桜」の名前で売り出されたと言われています。その後、染井吉野は、明治時代に急速に全国に広まりました。明治時代になると吉野のヤマザクラとは別種だと分かってきました。今ではエドヒガンが母で、オオシマサクラが父の種間雑種と言われています。また46都道府県の染井吉野が全てクローンであることが示されました。 カンヒサクラは、以前、日本に自生する野生のサクラの一種とされていましたが、現在は台湾から持ち込まれたものと考えられています。この種の花は、下向きで大きく開きません。「河津桜」や「寒桜」、「陽光」などの早咲きの栽培品種の作出に関わっています。	